

# EXTERIOR PLANNING CONTEST

エクステリアプランニングコンテスト

## コンテスト総評



とみた・じゅん  
トミタ ジュン

建築家・デザイナー／一級建築士  
東京電機大学講師  
アティモント・デザイン研究所代表  
1967年京都生まれ。  
ニューヨーク大学アート学部  
スタジオアート学科卒。  
東京電機大学建築学科卒。

グリーン建築家・工業デザイナーとしてカリスマ的存在のEMILIO・アンバースに師事。93年帰国して拠点を東京に。99年オリジナルブランド「アティモント」の活動開始。現在、建築、インテリアのみならず、家具、時計、メガネ、文房具からグラフィックまでボーダーレスにデザイン活動中。

90年ニューヨーク大学モダンアート展審査員特別賞、95年大阪グッドデザイン賞、通産省グッドデザイン特別賞、通産省グッドデザイン賞、96年米国I.D.アニュアルデザインレビュー最優秀賞などを受賞。

www.atimont.com

### 審査委員長 トミタ・ジュン氏

**日本のエクステリアライフを変える「こと」と「もの」?** -----  
エクステリア空間への多趣味、多様なクライアント・ニーズ、言い換えるなら「生活者の夢がどんどん膨らんでいるということ」が日本の風景を変えようとしている。趣味のティータイム、ガーデニング、読書、バーベキュー・パーティ...は「いつものこと」としてさらなるこだわり、つまりデザイン性、機能性、オリジナリティが要求されている。さらに、いままでまだまだ注目されていなかったライフスタイル-----ペットとの時間、子どもの世界、自慢の車の鑑賞、集いの場、ヨガやアロマセラピーなどの癒し、エクササイズ.....などが急速に進化、拡大している。

また、M.シェードを始めとする「新しい空間素材というもの」が日本の風景を変えようとしている。新たな空間素材により今まで出来なかったデザインが可能になった。例えば「採光と雨のシェルターを両立するルーフ」はニーズがあっても今まで非常に実現しづらいものだったが、M.シェードという素材を使うとそんなニーズをいとも簡単にしかもセンスよく実現できてしまう。メーカー努力による空間素材の進化により可能となった、新しいライフスタイルが特に注目される。

### 必要なのは、アイデアと予算-----

欧米先進国に比べ日本の街並みはまだまだ、まとまりがなかったり殺風景だったりしている。江戸時代の絵巻物などに映る日本の暮らしの情景は、今の時代から見ても欧米人から見ても美しく魅力的なものだったのに、戦後のカオス(CHAOS:混沌)をまだ引きずっているのではないかと。しかし、もはや経済大国となった私達は、自分の恥ずべき暮らしぶりに対して言い訳などできない。むしろ客観的に経済レベル、技術レベルを見ても、日本は世界の模範になるべき立場であることを我々は充分意識しているだろうか。自分達の暮らしに対して夢やこだわりを語り、一方では環境問題、資源問題を真摯に考え、自分達の暮らしを実現していく。もし、私達、空間デザインやエクステリアデザインに関わる者がそんな姿勢で日本のエクステリアライフを牽引すれば、日本の町並みは世界の中でも美しく楽しく、そして思慮深いものとして、世界中の住空間デザインモデルとなるに違いない。

豊かな日本の暮らしを表現するステージ空間として、エクステリア空間は急速に成長を続けている。ただし、それは過去の私達の財産である日本的なデザインへの愛情と理解、そして新しいデザインやアイデアを捻出す地道な姿勢が無しでは実現できない。空間素材の進化、ライフスタイルの進化が加速する今、我々が予算ではなく、美意識や知恵、そして努力で「美しい日本の町並み」をもう一度、創り上げる時が来た。

今回のエクステリアプランニングコンテストには、そのような期待、要求に応えるような新しいデザイン提案が溢れるように多数、全国より集まった。日々のプレゼンに切磋琢磨する現場のシビアさと感性の高さの中から、新たな日本のエクステリアライフスタイルが生まれつつある。

トミタ・ジュン



M.シェード部門

(有)エクスプランニング

子どもの世界と住宅機能を楽しく融合させた作品。大スパンのM.シェードのなかでプライベートとパブリックの託児所をゾーニングで複数の機能を持たせている。M.シェードを変型させ、シンボルツリー、高木、低木や草花が楽しめるよう上手く配置されている。砂場、ブランコ、菜園やデッキなどの変化に富んだ想像力豊かな造りも、変化ある生活シーンを楽しく魅力的だ。日常生活者が自宅副業で忙しい親の子どもをケアをするという、「自宅子どもケア」とも言うべきか、高齢化社会に向かうこれからの街を考えたアイデアも素晴らしい。



**大屋根に抱かれた心地よい暮らし**

**Concept**

この家で託児所を設けられているお母様の「おのれでも子どもたちが外の空間で遊べるようなお庭を...」というご希望にお応えして、大きな屋根が魅力的なM.シェードを採用しました。

敷地内のプライベートエリアとパブリックエリア。

2つの目的の異なるエリアの中で、M.シェードを効果的に活用し、居住空間のアップグレードのために、また住居の駐車スペースの確保として、複数の機能を果たしています。

プレキシングにアタッチできるM.シェードのメリットを活かして、屋根の一部をカットし、シンボルツリーや高木と組み合わせて豊かな緑にしています。また、アプローチなどの遊歩道や草花も思い通りに配置し、景観を個性化。緑の豊かさも同時に楽しめるように配慮。その建物を引き立てる空間までもが、いきいきと生きてくれる計画としました。

一つの敷地の中で用途の異なる2つのゾーンを、共通な素材で違和感なくまとめる一工夫。それぞれのゾーンにも特徴を持たせられる最適なアイデアも提案するゾーンの空間計画を行いました。

地域にも貢献出来る北窓を兼ねた付帯、室内と屋外が融合した未来の環境で暮らしを豊かに。大屋根に抱かれた心地よい暮らしを、M.シェードを中心にご提案しました。

---

**Private Zone プライベートゾーン**

シンボルツリーや高木をデザインに合わせて、いろいろなものを手配ししながら、緑豊かな環境をベースにデザインしたエクステリアデザインです。

既存のエリアから既存M.シェードの屋根を調整スペースの確保としても活用し、アプローチと遊歩道やデッキを併せ、環境を個性化させるスペースを確保し、緑豊かで思い通りのエクステリアを実現しました。

居住空間が機能性と快適性は、また暮らしのデザインやインテリアのバリエーションもデザインやエクステリアの2つの要素を併用し、両方を楽しめるような空間計画を行いました。

敷地の奥のガーデン部分はあまり手を加えない自然と調和を図ることの出来る、プライベートな心地よい庭園を作り、実用のある生活シーンを楽しくする計画としました。

---

**託児所ゾーン Nursery Zone**

子どもの遊びと学習を兼ねる託児所スペースには、広いデッキやベンチの配置やブランコ・遊具・土、外の空間に工夫のある造りから遊び場としています。

子どもと大人の遊びの土壌には、M.シェードの大屋根を切り入れ、天候に左右されることがなく快適な遊び場が実現。お庭の一角を開放したようなスペースに。

屋根の一部をカットして屋根したシンボルツリーの木漏れ日、自然な環境を演出しています。

M.シェードには、ローハンク素材と合成材を使用してバリエーションの多いデザイン、遊具コーナーのボックスを配置しました。お庭のシンボルツリーなど、育てる喜びを自然の中で楽しむことができます。

居住空間の外の外は、シンボルツリーや高木を兼ねることなく、美しい環境を作るように、デザインには細心の注意を払い、素材もローメンテナンス、木と木・アラウディアフェンスなど、光景の美しさを演出し大人がアットホームな環境を演出する計画としました。